

谷口 晴香

TANIGUCHI, Haruka

講師

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

■主な担当科目

動物行動学, 保全生物学, 生物学概論

■研究者略歴

2016年(平成28年)3月	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻 博士課程修了
2017年(平成29年)8月	琉球大学 国際地域創造学部 ポスドク研究員 (～2018年(平成30年)7月)
2020年(令和2年)4月	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 研究機関研究員
2024年(令和6年)4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師
2025年(令和7年)4月	公立鳥取環境大学大学院 環境経営研究科環境学専攻 講師

Research

■取得学位

博士(理学)(京都大学)

■専門分野

霊長類学, 動物行動学, 生態人類学

■現在の研究テーマ

- ・環境がニホンザルのアカンボウの社会関係の発達に与える影響
- ・環境がニホンザルの育児体系に与える影響
- ・人間活動を含めた環境が野生動物の社会に与える影響

■所属学会

日本霊長類学会, 生態人類学会, 屋久島学ソサエティ

Data

■研究等活動

【著書】

- ・『フィールドにみえた<社会性>のゆらぎ: 霊長類学と人類学の出会いから』(共編著), 2025年, 京都大学学術出版会

【論文】

- ・「ニホンザルのアカンボウの集まり: 地域間比較の試み」, 2025年, 『社会性の起原と進化 始論: 種と性を越えた比較研究のために』, 京都大学学術出版会
- ・「ニホンザル研究セミナーの開催と今後の展開 2022年度と2023年度のアンケート調査から」(共著), 2024年, 『霊長類研究』40号
- ・「ヤクシマザルの離乳期のアカンボウの伴食行動: アカンボウの集まりに着目して」, 2022年, 『生態人類学会ニュースレター』28号
- ・「Wound healing in wild male baboons: Estimating healing time from wound size」(共著), 2018年, 『PLOS ONE』vol. 13
- ・「How the physical properties of food influence its selection by infant Japanese macaques inhabiting a snow covered area」, 2015年, 『American Journal of Primatology』vol. 77
- ・「ニホンザルのアカンボウの集まりについていき, 彼らの『普通』を体感する」, 2015年, 『動物と出会う: 心と社会の生成』, ナカニシヤ出版

【報告書・その他】

- ・「フィールドノートを落としたとき: 探すか、見捨てるか、それが問題だ」, 2025年, 『ザ・フィールドワーク: 129人のおどろき・とまどい・よるこびから広がる世界』, 京都大学学術出版会
- ・「2022年度フィールドネット・ラウンジ企画 フィールドワークってなんだ?: 異分野方法論談議(霊長類学・言語学・歴史学・人類学)」, 2023年, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, URL: https://fieldnet-aa.jp/lounge/.assets/20230109_Fieldnet_lounge_Report.pdf
- ・「野生ニホンザルの離乳期の子育て」, 2020年, 『ヒトを見るようにサルを見る』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, URL: https://sociality.aa-ken.jp/data/wp-content/uploads/2020/11/Report_on_colloquium_2020.pdf

■社会貢献活動

- ・ニホンザル研究セミナーの企画・運営 (2022・2023・2025年度)
- ・一般公開セミナーの企画「フィールドワークってなんだ?: 異分野方法論談議(霊長類学・言語学・歴史学・人類学)」(2023年1月9日開催)